

千間堂池のトンボ

この建物の隣りの浅い池には 15 種類ほどのトンボが生息しており、その中には複数の絶滅危惧種が含まれます。この池とその周辺の湿地は完全に自然によるもので、この地域を覆うほとんど透水性のない硬い粘土質の土壌のわずかなくぼみに、雨水が溜まってそれらは形成されています。池は周囲の森とともに、水中で育つ植物の茎に卵を産むトンボにとって理想的な環境です。卵が孵化すると、生まれたてのトンボは羽化して成虫になる準備ができるまで、幼虫として池の中で暮らします。その後、成虫になると森に移動し、そこで成熟してから池に戻って交尾をします。千間堂池では、次のようなトンボが見つかります：

ショウジョウトンボ (*Crocothemis servilia mariannae*)

この真っ赤なトンボは、5 月から 9 月上旬にかけて池に生息し、この地域で最もよく見られる種のひとつです。ショウジョウトンボは、水面からの反射を頼りに飛行し、大きくなると池から離れます。

キイトンボ (*Ceriagrion melanurum*)

この薄緑と黄色の種は、学術的区分上はトンボではなくイトトンボに属します。トンボとイトトンボの最も顕著な違いは、イトトンボが静止時に翅を後ろに折り返すのに対し、トンボは体から離して平らに保つことです。ここで 5 月から 9 月上旬に見られるキイトンボは、農業に敏感で、現代的な農業が行われている場所の近くに生息することはできません。

コシアキトンボ (*Pseudothemis zonata*)

6 月から 9 月下旬にかけてこの池でよく見られるコシアキトンボは、翅のすぐ後ろにある黒い体を横切る太い白い縞模様で見分けることができます。この縞模様は、光と影が交錯する池で保護色の機能を果たします。